

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 29 年 4 月

○ 概要

- (1) 平成 29 年 4 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,296 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲1.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,343 円（伸び率+1.9%）であった。（→P.1~2）  
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,550 億円（伸び率+0.6%）、薬剤料が 4,736 億円（伸び率▲1.6%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 768 億円（伸び率+9.5%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,758 円（伸び率+0.1%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.84 種類（伸び率▲0.7%）、24.0 日（伸び率+2.2%）、85 円（伸び率▲1.5%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,881 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲114 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 848 億円（伸び幅▲13 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の 22 億円（総額 255 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,881 億円 (▲114 億円)	21 循環器官用薬 (848 億円)	11 中枢神経系用薬 (660 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (551 億円)
0 歳以上 5 歳未満	36.2 億円 (▲5.0 億円)	44 アレルギー用薬 (16.2 億円)	61 抗生物質製剤 (7.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	883 億円 (▲3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (42.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (16.2 億円)	61 抗生物質製剤 (9.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,348 億円 (▲53 億円)	11 中枢神経系用薬 (283 億円)	21 循環器官用薬 (254 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (201 億円)
65 歳以上 75 歳未満	962 億円 (▲58 億円)	21 循環器官用薬 (255 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (164 億円)	11 中枢神経系用薬 (113 億円)
75 歳以上	1,445 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (337 億円)	11 中枢神経系用薬 (247 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (181 億円)

- (4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,343 円（伸び率 +1.9%）で、最も高かったのは石川県（11,024 円（伸び率+1.7%））、最も低かったのは佐賀県（8,108 円（伸び率▲1.1%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+4.8%）、最も低かったのは京都府（伸び率▲1.4%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 768 億円（伸び率：+9.5%、伸び幅：+66 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	68.8%	+4.0%
薬剤料ベース	16.2%	+1.6%
後発品調剤率	67.7%	+2.0%
（参考）数量ベース（旧指標）	45.7%	+2.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+9.5%	+19.7% (15 歳以上 20 歳未満)	+4.0% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.2%	17.0% (75 歳以上)	10.8% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	683 億円 (+58 億円)	21 循環器官用薬 (189 億円)	23 消化器官用薬 (109 億円)	11 中枢神経系用薬 (79 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.0 億円 (+0.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (1.5 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	12.7 億円 (+1.2 億円)	44 アレルギー用薬 (7.0 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	230 億円 (+22 億円)	21 循環器官用薬 (52 億円)	44 アレルギー用薬 (41 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)
65 歳以上 75 歳未満	171 億円 (+10 億円)	21 循環器官用薬 (61 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	33 血液・体液用薬 (19 億円)
75 歳以上	263 億円 (+24 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,140 円	1,497 円（岩手県）	953 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+12.7%	+17.4%（山梨県）	+8.8%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	68.8%	80.0%（沖縄県）	59.4%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.2%	20.5%（鹿児島県）	13.4%（徳島県）
後発医薬品調剤率	67.7%	78.5%（沖縄県）	61.2%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	45.7%	56.4%（沖縄県）	39.8%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成29年4月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。